

# 『狂歌絵師 北斎とよむ古事記・万葉集一』

## —北斎はどのようにして百人一首を27枚に要約したのか—

葛飾北斎の「百人一首 姥がゑとき」はなぜ、27枚しかないのか。

本書はこの謎ときから始まります。

100首とっていながら、なぜ27枚しかないのかと考えていくと**万葉集の27番**と**百人一首の27番**は「誹諧歌」としてつながっていることがわかりました。さらに万葉集の最後の歌は4516番なのですが、これを因数分解すると  $4 \times (20 \times 20 + 27 \times 27)$  となり、**27** という数字が大切にされていることもわかりました。

ところが北斎の絵をみていくと27よりも**足して35**になる組み合わせが重要であることがわかりました。たとえば10枚目と25枚目とか17枚目と18枚目とかです。これは**百人一首10番**の中の奇妙な歌語「これやこれ」が**万葉集の35番**の元明天皇の歌からとられているからです。

結局、北斎の「百人一首 姥がゑとき」の27枚の方法は、「合わせ対歌」と「通し番号」の本立で絵柄を組み合わせて、いろいろな謎かけをしつつ、その謎の解釈を提示することにあつたのです。

なぜならば、武断の勝利者である天武天皇一家の事績は、長子相続を建前にする江戸時代をとおして難しいものがあつたので、表に出すことは**はばか**られたからです。

また、万葉集の時代の天皇は女性天皇が多いので後世の儒教学者からは嫌われ、歴史学においても、持統天皇はともかく古事記・風土記の編纂を命じた元明天皇を黙殺してきました。しかし**万葉集35の元明天皇御製歌は、百人一首10の蟬丸の「これやこれ」に引きつがれています。**もつという百人一首の中の蟬丸、伊勢、右近、相模という名字も位階もなしの4人の女性の歌番は大切な暗章を担っています。そのことは、「大夫」の肩書のつく猿丸、藤原道雅、藤原顕輔、藤原俊成の4人の歌番と対比するとその事実が明確になります。

このようにして、北斎の「百人一首 姥がゑとき」の27枚をきちんと見ていくと、万葉集から新古今和歌集までの歌道の歴史を丁寧に拾っていることがわかります。まだまだ粗い議論ですが、今後にご批判をいただければ幸いです。

岡林みどり

ホームページ ; <http://midoka.life.coocan.jp/>

